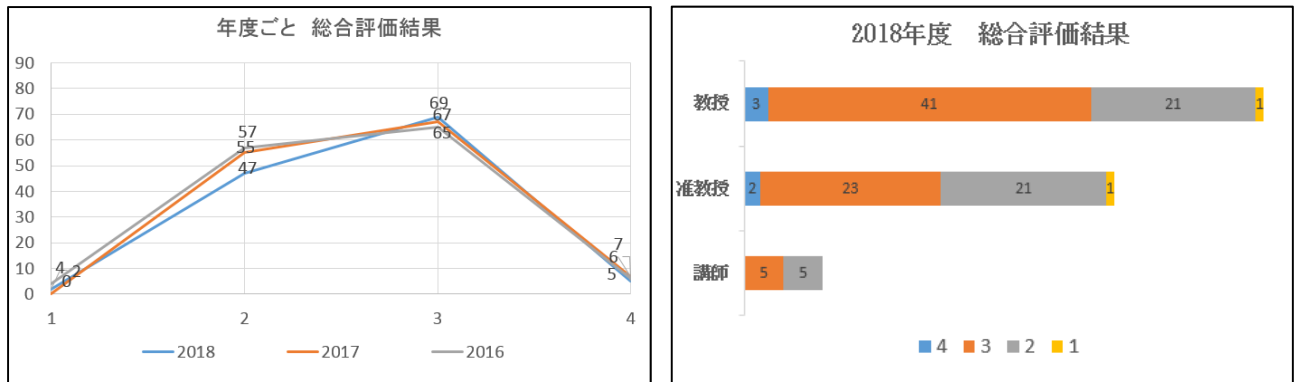


2018年度教育研究業績評価（活動対象 2017年度）の結果について

副学長 真銅 正宏

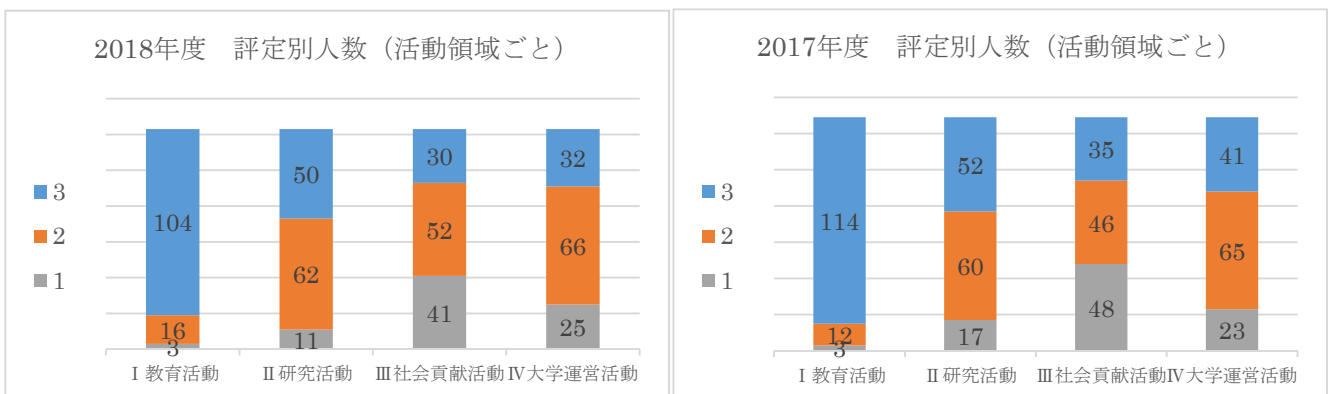
2018年度は教育研究業績評価制度による評価結果と役割期待評価による評価結果を複合的に組み合わせた評価を実施した。これは教員個人の教育研究業績に加えて、組織が期待する役割の遂行、組織への貢献度（組織コミットメント）を評価するもので、教員一人ひとりの業績及び能力の向上と大学の教育力の質向上を目的とした取り組みである。

さて、その2つの評価制度のうちの教育研究業績評価について、2018年度教育研究業績評価（活動対象 2017年度）の結果を以下のとおり報告する。



2016年度・2017年度・2018年度の3年間を経年比較したものが左の折れ線グラフである。大幅な制度のリニューアルの後、2014年度より再スタートした教育研究業績評価だが、リニューアル後も教員の意見を聞きながら諸々の項目で毎年改善を施してきた。そのような取り組みや教員個人の努力もあり、2015年度以降徐々に総合評価結果が1「改善を要する」者が減少した。その他の項目についても、年度を重ねるごとに2「可」が減少し、3「優れている」、4「特に優れている」者が増加傾向にあることは、本制度の目的とする「教員一人ひとりの業績及び能力の向上」について効果が見られたと考えられる。

続いて、2018年度の活動領域ごとの評定について前年度と比較し確認する。



I 教育活動領域については、前年度と同様 2「水準を満たした」あるいは 3「水準を上回った」者が 97%以上であり、今後も教育の質を向上させながら維持することを期待する。

II 研究活動領域については、1「水準に達していない」者が順調に減少している。

III 社会貢献活動領域については、2「水準を満たした」あるいは 3「水準を上回った」者が 2017 年度は 62.8%であったが 2018 年度は 66.7%と増加した。2019 年度は新キャンパスが開設され、地域連携、地域貢献を進めていく必要があり、より積極的に社会貢献活動に関わっていくことを期待したい。

IV 大学運営活動領域については、2「水準を満たした」あるいは 3「水準を上回った」者が 82.2%から 79.7%へ減少しており、より一層の大学運営への積極的な参画の促進を期待する。

さて、2019 年月 4 月には新キャンパスが開設した。2018 年度はこの新キャンパス開設に向けた新たな教育への展開のため、新教育 WIL や追大版リベラルアーツ、BYOD の活用に向け様々な取り組みを進めてきた。2019 年度の新キャンパス開設を契機とした教育展開も踏まえて、教育研究活動に取り組むことが求められる。様々なツールを活用し、積極的に新たな学びの展開や研究活動を進めていただきたい。

また、新たな学びを展開するためには従来の教育方法等を大幅に見直しすることも必要となる。目標設定、評価についても、教員一人ひとりの特性に見合った新たな教育方法や研究活動等に適する柔軟な制度に見直すことも検討している。このような制度も活用し、追手門版「新教育」の確立に向けて取り組むことが期待される。

以上

## 教員評価制度 評価基準

### 1. 教員評価の目的

教員の教育・研究活動状況について、自己点検を踏まえ、客観的に評価し、教員の意識改革を促すとともに、教育改善を促進させる。さらに教育・研究業績などの状況と評価結果概要を公表することにより、社会に対する説明責任を果たすことを目的とする。

### 2. 評価制度の仕組み

#### [1] 評価制度概要

① 評価の構成：領域別評価および総合評価

#### [2] 評価の対象

① 教員評価の対象とする教員は、追手門学院大学就業規則第1条第2項に定める専任の教員のうち、副学長、学部長および基盤教育機構長を除く教授、准教授及び講師とする。ただし、任用期限付専任教員（任期制教員A）および任用期限付専任教員（任期制教員B）も対象とする。

② 評価対象年度または評価実施年度に、長期出張（研修含む）、育児休業等の特別な事情がある場合は、当該期間について評価の対象から除外する。

#### [3] 評価者

① 一次評価者：副学長（総務領域担当）、学部長、基盤教育機構長（以下、「学部長等」）

② 二次評価者：学長（全学教員評価委員会の議を経て行う）

#### [4] 評価対象期間

① 教育活動 前年度1年間（4月1日から翌年3月31日まで）

② 研究活動 過去3年間（年度単位）

③ 社会貢献活動 前年度1年間

④ 大学運営活動 前年度1年間

#### [5] 評価手順

① 被評価者（以下「教員」）による評価書類の作成（年度の教育活動目標設定、領域ごとの業績についての評価申告）

② 学部長等による面談の実施

③ 学部長等による一次評価

④ 学長による評価（二次評価）

⑤ 教員への評価結果通知

⑥ 教員からの結果に対する意見の申し出

⑦ 教員からの意見申し出に対する所見

⑧ 教員評価最終結果報告（全学教員評価委員会、大学教育研究評議会）

⑨ 教育活動目標の達成状況等の自己評価

### 3. 評価基準

領域 (評価対象期間)	評価の視点	評価基準		帳票	評価ウエイト	
		領域別評価	総合評価			
教育活動 (前年度1年間)	○教育に関する目標の達成状況に加えて、その過程と成果を評価	3 水準を上回った、目標を上回った	4 特に優れている 3 優れている	教員評価票 1	教授 40% 准教授 35% 講師 35%	自己裁量領域 10%  ※教育活動 研究活動 社会貢献活動 大学運営活動 のうち1つに加算
	○自らの担当する授業科目の規模、教育効果の向上や教授法習得など積極的な取り組みへの評価 ○学生による授業アンケートの評価 ○学生指導、支援活動に関する具体的な取り組みを評価	2 水準を満たしている、目標に達した	2 可 1 改善を要する	教員評価票 2		
研究活動 (過去3年間)	○著書・論文の執筆や研究発表状況 ○外部資金獲得や受賞の状況			教員評価票 2	教授 25% 准教授 35% 講師 35%	
社会貢献活動 (前年度1年間)	○地域や産業との連携・協力や教育研究の普及・啓発などの取り組み			教員評価票 2	教授 10% 准教授 10% 講師 10%	
大学運営活動 (前年度1年間)	○部局長等の実績や入試関連業務において積極的に役割を果たしているか。 ○学内行事に積極的に出席しているか			教員評価票 2	教授 15% 准教授 10% 講師 10%	